

2024 年 12 月 29 日（日）第二礼拝「リバイバルの知らせ」Ⅱ列王記 7 章 1～9 節

サマリヤという町は、国家的、経済的、社会的に危機的な状況に置かれていました。しかし、サマリヤはエリシャに預言された通り、一日のうちにその経済が正常に戻りました。

第一番目、サマリヤの事情です。ソロモンの偶像崇拜の結果、国は南北に分裂しました。サマリヤは、北イスラエルの首都でした。アハブ王がバアルの祭司長の娘イゼベルと結婚したことにより、八百五十名のバアルの崇拝者たちが、北王国の公的職務に着き、国は混乱しました。また、3 年間雨が降らなかったため、飢きんになり、更にアラムのベンハダテがサマリヤの城壁を取り囲んだため、人々は飢えに苦しみました。サマリヤでは、汚れたものが売買され、自分の子どもさえ煮て食べるほどに悲惨な状況でした。これに対して王はエリシャに怒りを発しましたが、彼は「明日の今ごろ、サマリヤの経済が正常になる」と預言します。それを聞いた王の侍従は信じませんでした。食べものがない状態とは「御言葉の飢きん」を意味します。また、ロバの頭や鳩の糞など汚れたものが売買されるとは、異端宗教が横行することを意味します。サマリヤには御言葉がなく、異端宗教がはびこる状態だったのです。

第二番目、リバイバルに用いられた人です。サマリヤの町の門の入り口に、四名のツァラアトに冒された人々がいました。彼らは「どうせ死ぬなら、アラムの陣営に行こう。彼らが生かしてくれるなら、私たちは生きのびられる。」と言って、大きな決断しました。絶望的な状況で、彼らは希望を持ち、食べものがある所に行ったのです。これは、御言葉を握り、リバイバルに向けて前進することを意味します。四名の者たちがアラムの陣営に行ってみると、彼らは逃げ去った後でした。四名の者たちの移動が、戦車の響き、馬のいななき、大軍勢の騒ぎとしてアラムの陣営に聞こえたのです。このように、私たちが御言葉を握り、リバイバルに向けて前進する時、御言葉を成就する御使いたちが送られ、奇跡が起こるのです。

第三番目、愛の連合です。四名の者たちが一つとなり、食べものに向けて前進した時、奇跡が起こりました。彼らは、御言葉の成就のために用いられたのです。

今回来日された方々は、日本のリバイバルの預言や、主から与えられた夢を語ってくださいました。彼らは、日本と韓国が一つとなり、リバイバルが起こることを宣言し、その記念にテープカットをしました。これは預言的な行為です。日本の固い土壌に落ちた種は実を結び、御言葉を信じた者たちは勇士になること、また、東の門が開いて大リバイバルが起こり、フルゴスペル福岡教会も四十年目に大リバイバルを見ることが預言されました。四名の者たちがアラムの陣営で飲食し、金銀や衣服で満ち足りたように、日本もまた、御使いの助けを受け、大きなリバイバルを見ることが信じます。四名の者たちはこの奇跡を王の家に知らせましたが、その結果、サマリヤの経済は正常になり、エリシャの言葉通りになりました。それを信じなかった王の侍従は踏まれて死んでしまい、その預言もまた成就しました。御言葉を信じるなら、その通りになるのです。私たちは希望を持ち、リバイバルにむけて前進していきましょう。アーメン！